



# 津南ロータリークラブ週報

第2630地区 ROTARY CLUB OF TSU-SOUTH



2017~2018

例会日/毎火曜日

例会場/津都ホテル 津市大門7-15

事務所/津市大門10-7

ピッチャーズビル2階

TEL 225-2373 FAX 213-6175

会長/山田 俊郎

幹事/西井 健之

E-mail: src.tsu@dream.ocn.ne.jp

ホームページ: http://tsu-minami-rc.com/

## 第2488回例会 2017年8月22日(火) 天候 晴時々曇り

—— 8月は会員増強及び拡大月間 ——



### 例会予定

- 8月29日(火) 外来卓話  
三重県警察本部サイバー犯罪対策課  
飯田 真琴様
- 9月5日(火) IM報告
- 9月12日(火) 外来卓話  
表具師 裏千家 中島 文雄様
- 9月19日(火) 観月夜間例会 18:30~  
於: アールベルアンジェ Mie

### 進行担当

[吹戸副SAA]

国歌斉唱 ロータリーソング それでこそロータリー

### 来訪者

[山田会長]

ゲストスピーカー 小河 正行様 (茶庭師・裏千家)  
名張中央RC 中谷 大介君

### 出席報告

[阿部委員]

8月22日 出席率 48名中 39名 81.25%  
8月1日 修正出席率 48名中 45名 93.75%

### ニコBOX

[三浦委員]

- 中谷 大介君 (名張中央RC) 本日お世話になります。
- 山田 俊郎君 茶庭師・裏千家 小河様、本日は卓話宜しくお祈りします。
- 西井 健之君 茶庭師・裏千家 小河様、本日は卓話楽しみにしております。
- 小川 恭平君 澤田さんの会社の50周年を御祝して。
- 村木 正二君 澤田さん、会社創立50周年おめでとうございます。更なる発展を祈念致します。
- 刀根 大士君 小河正行様の卓話楽しみに拝聴致します。
- 栗田 明君 小河親方、お忙しい中、又ご遠方をよく来て頂きました。よろしくお祈りします。

### 会長報告

[山田会長]

◆方針管理や進捗管理を行うにあたり、良く「目的」、「目標」という言葉が出てきますがこの二つの「何かに向かって行動する」時の“何が”に対して使われます。どちらも良く耳にしますが、目的とは、成し遂げようとする事柄。目標とは、目的を達成する為に設けた、目当てを調べることで出てきます。目的は抽象的で数値で表せないもの、目標は具体的に数値で表す事が出来ます。「目的」の為に「目標を達成する」と覚えることが良いと思います。「目的」は最終的に達成することなので、一つだけ持ちこれに対し「目標」は、その「目的」を達成する為であれば、沢山用意出来ることとなります。小さい「目標」をいくつも設定し、これを達成することで「目的」に向かうことが出来ます。ちょっとした言葉の定義で双方とも理解が深まるのでは、それぞれの言葉の意味を理解することが大切です。

※前回の都民ファーストも目標と目的の関係  
これは、実行するのに難しい。

### 幹事報告

[西井幹事]

- ★本日定例理事会開催の件
- ★IMの件
- ★野口雨情石碑の件
- ★例会変更 3件

### 8月定例理事会報告

- ・新会員の件 承認
- ・津まつり協賛の件 承認

- 大川 吉崇君 ・遠来のお客さんを迎えました。卓話を楽しみにしていました。拝聴させていただきます。
- ・お盆に立山連峰と剣岳を眺め、お花畑コースで知られる奥大地岳・大日岳コースを人の1.6倍の時間を掛けて歩いてきました。精神的には充実しましたが、加齢で一週間疲れは取れませんでした。
- 澤田 勝志君 ・この8月19日で、会社創業50周年を迎えました。多くの人達に助けられありがたく思っております。
- ・小河様の卓話楽しみに聞かせて頂きます。

今野信太郎君・茶庭師・裏千家 小河正行様をお迎えて。本日の卓話よろしくお願い申し上げます。  
・長谷川会員、昨日から2日間に亘り、大変お世話になります。  
薄井 美弥君 皆様お久しぶりです。盆休みは楽しくお過ごしになられましたでしょうね。本日、小河様、遠方よりお越し下さりありがとうございます。楽しみにしておりました。しっかり学ばせて頂きます。

竹内 敏明君 澤田さん、会社創業50周年おめでとうございます。  
カトウサトシ君 澤田勝志様、会社設立50周年おめでとうございます。先日祝賀会場から村木様他数名の方々からお電話いただき知りました。  
茶庭師・裏千家 小河正行様をお迎えして、  
伊藤 仁君、宮崎吉史君、岡部宏司君、伊藤歳恭君、鈴木康義君、佐々木喬君、林 裕行君、川喜田久君

## 外来卓話

### 露地の約束ごと



茶庭師・裏千家 小河 正行 様

#### 役割り

日本庭園の中には細かく分けると池水庭園、枯山水、回遊式庭園、町家の庭、坪庭等どれをとっても心が和み、癒やされる。座敷から庭を眺めたり、歩きながら四季折々の花木や草花を見て楽しむ庭、それぞれがその場に合った庭の役目をしている。中には同じ庭を見て何も感じない人もいるだろうし、それは人によって感じ方が違うので、自由な発想で良いと思う。しかし露地に限っては、何処から降りて、何処に行くのか目的地がハッキリしていること、一般的には茶事の主役は茶席の中で行われる亭主の趣向である。茶事が目的であって、露地はあくまでも手段であることが大切であると同時に、目立ってはいけないと言うところが、大きな違いではないかと思う。

#### 利休の感覚

茶人が茶席での演出に拘るのは当たり前だが、露地がしっかり役割を果たしていないとせつかく亭主が、茶席の中で趣向を凝らしても半減してしまう。

良い露地とは大きさでもなく、高価な木や石造物が配置してある訳でもない。

#### 露地の工夫と役石

広い所はわざと視界を狭くして景色を隠したり、逆に小さい露地は飛び石を真っ直ぐに打つのではなく、曲がりくねって少しでも歩数を増やしたりして、茶席までの道のりを長く見せる工夫をする。今まで作った露地の中には、500坪以上ある露地もあれば、たたみ三畳の露地もある。三畳の中には腰掛け待合いもあれば中門もあり、もちろん蹲踞も鉢灯りもある。どんな条件でも作れるのも露地の特徴かもしれない。

そして大事なことは色んな役石の寸法が決まっているので、頭の中でそれを把握し、後はその場所に合わせて調整をする。特に狭い露地は一目で見渡せるので、実用性も大事だが見かけも必要としてくる。

躡口の大きさも利休の時代と現代もほぼ同じ、蹲踞の役石も腰掛け待合いの座の高さも昔と同じで、今の現代人でも通用する所が不思議である。

待庵を作った利休は身の丈が六尺近くあったと言うことだが、茶席の天井は低く躡口は小さいがどうしてここまでしたのか不思議である。色んな無駄をそぎおとしたのが草庵式の茶室と聞いているが、研ぎ澄まされた感覚を持つ人間でないと出来ない技である。約束事についても昔のままの姿もあれば形は残っていても使い用途が変わってきたりしている。

躡口の近くには塵穴が設けてあるが、四畳半を境にそれより狭い茶席であれば丸型、それより広ければ角型の塵穴を設けることが決められている。初めからゴ

ミを入れる目的なのか、または違う目的で作られたか？あまりはっきりした、文献も残っていないようだ。  
実用性のない筈？

飾り箒も同じことが言えると思う。裏千家では内露地には蕨箒を掛け、外露地には棕櫚箒を掛ける。箒と名前がつく以上、柄もついているので掃けそうだが、今使っている竹箒に比べると非常に掃き辛い。この飾り箒もどんな目的があって掛けられているのかが不思議である。先程は無駄なものをそぎ落としたものが、茶席であり露地もそうであるように今日まで形が残されてきたのは、必要性があり、尚且つ目的もあるのではないかと思う。

#### 昔からの名残り

それから、この頃の茶席にはあまり見かけないが、躡口の近くには刀掛けがありその下には刀掛け石と言って、必ず二段石になっている。茶席には入る時は武士といえども大切な刀を外して席入したのか？大刀と小刀が置けるように上と下とで二段になっている為に役石も二段にしてあるかもしれない。

刀掛け同様にあまり見かけない一つに飾り雪隠がある。役石も配石され 寸法もほぼ決まっている事が多いが、考えてみれば少し矛盾したところがある。露地は清浄な場所と言われているのに、何故便所があるのか？茶事の時に食べたり飲んだりするのだから当然、便所に行くのが常識ではあるが、砂雪隠は実際には使われてなかったようである。確かに、白川砂を引いていかにも清めてある風情であるし、見た感じが使いにくい気がする。壁には変な板のような物が掛けてあるが、これは触杖と言って用を足した後に掛ける杉板でこしらえた籠のようなもの。これも一応、利休好みがあった寸法も決まっているようだ。

勿論あくまでも飾りなので、使用することはないが、便所一つにしても約束ごとや決まり事があるので、それを変える事は出来ない。

#### 決められた中に遊び心を

兎に角、他の庭に比べると色々な面で、決まり事は多いが、ただこれも亭主の思い一つで、どんなふうにしようと勝手な面もある。そこが、面白いところではないかと思う。良く臨機応変と言う言葉を聞くが、正に露地はその通りである。

決まり事がある中で一寸した遊び心を入れ、その場所にあった此処にしかない露地を作る事が自然の中に溶け込んでいるのではないかと思う。

我々庭師も仕事として露地を作るのではなく、施主とのコミュニケーションとして、一緒に作りあげていくことが最も大切なことではないかと思う。相手のことを考え、120%の力を出し切り、満足してもらうことが相手にとっても、作り手にとっても同じ喜びを分かち合えるのではないかと思う。

師匠から教わったこと、又自然から学んだことを私なりに後生に伝えていくことも同じぐらい大切なことである。